

勢陽五鈴遺響

桑名郡

三

和書門			
二九〇一九	號	函	架
四〇	冊		

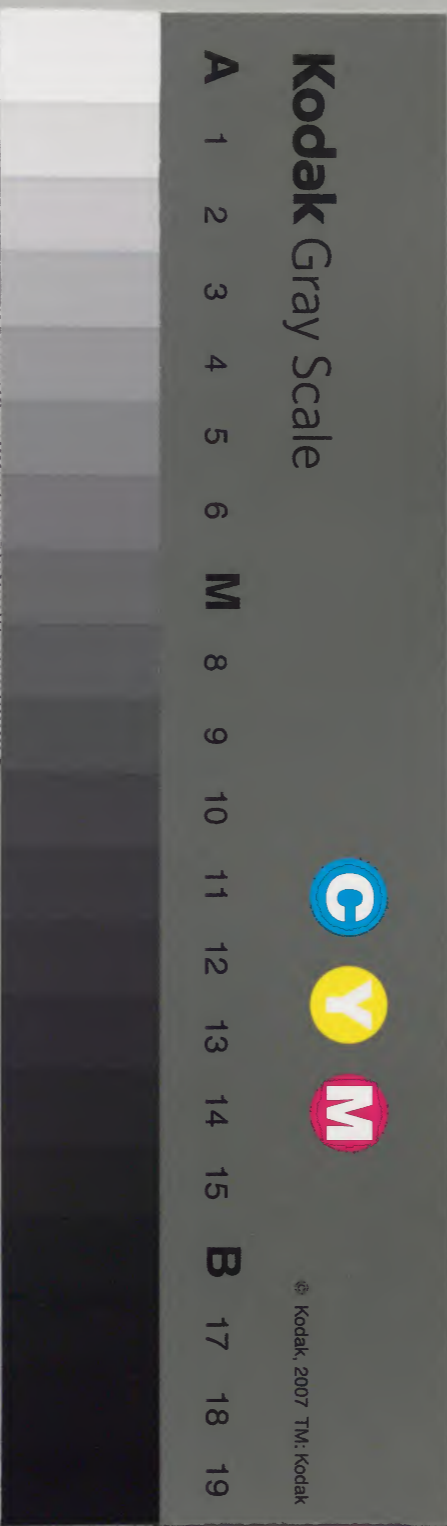
內閣文庫		
和書類	二九〇一九號	四〇冊
函架	三〇	一七二函



內閣文庫	
番號	和 29019
冊數	40 (3)
函號	172 310

地三三

内一〇六二九號



内封

Faint, illegible handwritten text in vertical columns on the left page.

Blank right page with a diagonal crease and some minor stains.



勢陽五鈴遺響衆名郡卷之

二六八 一〇七二五號

木野 多度ノ西ニアリ 山中ニ民居ス明曆中因

小古野ノ記又正税四百三十九石衆名領ナリ

上古ヨリ多度神領ノ地ナリ云々

美鹿 木野ノ西負辨郡界ノ山中ニアリ 正税

二百四十三石衆名領ナリ

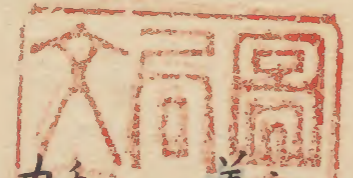
力尾 美鹿ノ巽位ニアリ 香取川ノ水源ナリ

正税二百七十七石衆名領ナリ

式外春日神祠アリ

猪飼 力尾ノ川ノ北ニアリ 正税二百五十三

石衆名領ナリ 猪飼洲アリ 小川ナリ 神領



目錄云外宮御領富津猪飼御厨七石

猪飼城跡、同処ニアリ小串次郎左衛門尉則

道居セリ累祖六代住リ天正五年卒メ其嗣ヲ

七セリ古屋草紙永禄十一年信長ノ為ニ滅ス

式外菱宮明神祠アリ方俗シラユノ宮ト称ス

北猪飼木猪飼山北正税二百七十三石

兼名領ナリ勢陽雜記中猪飼ヲ載ス

小山北猪飼ノ良位ニ正税九百五十一

石兼名領ナリ本邑ニ三郷アリ大久保北山

中小山アリ中小山ハ本郷ナリ

式内亦山神社兼同処ニ祭神未詳溝野位

富神社草刈洲ヲ涉リ此中小山村ニ坐ス

今俗曰恍々龍社ト称ス此処曰後山ヲ踰テ

一里計多度山ニ至ル度會延經神名帳考證

云小山神社山祇神小訓等若也見上在多度東

南小山村度會正身神名帳再考證云小山神

社社地多度東南小山村ニ祀神山祇也

今詳ニスルニ延經考證ニ小山神社ノ名義

扱テ小ハ乎ナリヤマト訓テ乎ハ字ハ若ト

同シ見上下云ハ安濃郡小丹神社ニ條ニ若沙

那賣神按ニ小ノ字若也日本紀云少宮此云倭

柯美野ト云注ニ解セリト云義ニメ小山ハ名

ニ扱テ山祇命ヲ奉祀ト云多度村ニ東南小山

ニ扱テ山祇命ヲ奉祀ト云多度村ニ東南小山

ニ扱テ山祇命ヲ奉祀ト云多度村ニ東南小山

ニ扱テ山祇命ヲ奉祀ト云多度村ニ東南小山

ニ扱テ山祇命ヲ奉祀ト云多度村ニ東南小山

ニ扱テ山祇命ヲ奉祀ト云多度村ニ東南小山

ニ扱テ山祇命ヲ奉祀ト云多度村ニ東南小山

村ニ所在ト云又正身再考證前證ニ從テ別
論ナシ今詳ニ又北ニ小山神社ノ号ニ拠テ
小山ニ在下スルハ他ノ嘴ヲ容ルニ及ハス然
レ氏本色ニ方俗ニ幡祠ト称ス此社アリ又白
光八竜神祠ト称ス一區ア所土衣或云此小山
神社ニ填メニ上桑名郡賦此ニ從テハリ既ニ多
度神社ノ神領田十五石桑名領主ヨリ寄附此
地ニ以存セリ孰レ神域ニハ八竜神祠ト称ス
ルニ多度天目一箇命ノ神意ニ化スト云俗譚
ニ從テ故土人ニ從テ天自光八竜神ト云ハ
即小山神社請填ムト憶以日勢陽雜記拾遺
及古屋草紙式社案内記各ニ考證所載ハ此村

一在ト云從テ其神社ニ分別ナシ藤原
スハ今式社案内記等ハ八幡祠ヲ是ト云
又祭神大山祇命トメ諸家異ナシト云ニ此ニ
排斥スルハ好奇ト云ハ氏土俗ノ徴ヤ固キ
テ其真ヲ得ニ力為ニ異問ヲ設テ此ニ標スル
ナリ
小山城址同処ニテ高井民部大輔居ス淡
川出雲守ヨリ從弟ナリ永祿十年織田信長勢州
征伐ノ時マテ往セリ
上脰江 小山ノ南十六丁ニアリ 正税百四十
三石桑名領ナリ
下脰江 上脰江ノ東ニアリ 正税二百十四石

下葉名領ナリ肱江ノ名ナクハ溝野川ト猪飼
川ノ曲灣ニ民居ス故肱臂ノ形ニ似タルヲ以

名ク 肱江川アリ 戸津ノ下肱江ノ北ニアリ旧名尾津或ハ表津中

古ニイタリ富津今戸津ト称セリ正税四百
八十四石葉名領ナリ葉名府ノ良位辭又柚井

ヨリ稍三町ヲ隔テリ 神鳳抄云内宮富津御
厨十九町外宮三石又東富津御厨十九町外

宮神領目錄云外宮富津御厨六石此外副米壹
石

式内尾津神社 同処ニアリ小山神社ヨリ乾位
十六町本邑西ノ森小ノ午頭天王ト称ス又

同処東ノ宮ト称スアリ八幡天満宮併祭ニテ

同殿ニ坐ス是ト異テト混ス人カラス度會
延經神名帳考證曰尾津神社ニ座日本武尊兒

稚武彦王命尾津君等祖日本紀行景云日本武尊
向東之歲停尾津濱而進食是時解一劍置於松

下遂忘而去余至於此劍猶存故歌曰烏波利珥
多陀珥霧伽幣流比苦菟麻菟云云古事記遠都

能佐岐那流此登都麻都云々此社在戸津村北
御衣野村隣也古老云今長嶋地古尾張因海部

郡也今為伊勢因且江海埋為陸與此歌辭地勢
不相合 度會正身神名帳再考證云尾津神社

ニ座考證云祀神日本武尊稚武彦命ナリ又云

社地戸津村ノ北ニ在御衣野村ノ隣郷ナリト
猶考ヘシ景行紀曰日本武尊向東之歳停尾津
濱進食是時解一劍置於松下遂忘而去今至於
此劍猶存故曰烏波利珥多陀珥霧伽幣流比若
菟麻菟安波例言心ハ尾張ニ直ニ向ノ地ナリ
一以松下宜ヲナリ。ハ在ノ用又古史紀云遠
都能佐岐那流比登都麻都云々此尾津ヨリ直
ニ向ノ下云ハ尾張ノ地ハ今ノ伊勢ノ國ハ
長嶋ナリ古老曰長嶋ノ地ハ古ハ尾張國海部
郡ニ屬ナリ今ハ伊勢國トナリ今詳ニ又
此尾延經考證ニ尾津神社二座ハ日本武命稚
武彦命曰史紀又引抄ノ日本武命ノ兒稚武彦

命ハ尾津君等ノ祖ト云云。抄ニ猶日本景行
紀ヲ引徵曰日本武尊向東之歳停尾津濱而進
食是時解一劍置於松下遂忘而去云云此社戸
津村ノ北ニ在リテ御衣野ノ隣邑ナリ古老傳
云今本州ノ長嶋ノ地ハ上世尾張州海部郡ニ
屬セリ今伊勢國ニ隸ス江海座埋メ陸路ト變
ス此ニ及テハ上ノ哥辭ニ地勢相合ハスト疑
ヘリ又正身再考證云祭神ハ前考證ニ從テ異
ナシ社地ハ戸津村ノ北ニ在リ御衣野ノ隣郷
ナリト云猶考ヘシ景行紀ニ向東之歳云云多
陀珥霧伽幣流比若菟麻菟云云尾張ニ直ニ向
ノ地ナリト云松下云ナリ烏波利ヲハ在ノ

用三ノ尾張十ノ又古夏記ヲ引扱以遠都能佐
岐那流比登都麻都云云尾津ヨリ直ニ向フ尾
張ト云ハ今ノ長嶋十ノ故ニ前證ニ云地勢相
合ハスト云義ハ今古地方ノ差ニテアス尾張
ト云ハ長嶋十ノ力故ニ其地ハ今ト差七夕心
ト憶フ僻説ナリト云見解也愚按ニ古夏
紀景行御卷曰尔天皇亦頻詔倭建命言向和平
東方ト云道之荒夫流神及摩都樓波奴人等而
副吉備臣等之祖名御鋤友耳建日子而遺之時
給比羅木之八尋彘故受命罷行時忝入伊勢
大神御宮拜神朝廷知白其姨倭比賣命者天皇
既旣以思吾死乎何擊遺西方之惡人等而遂忝

土來之間未經幾時不賜軍衆今更平遣東方十
三道之惡人等因此思惟猶所思者吾既死焉患
泣罷玉時倭比賣命賜草那藝劔亦賜御囊而詔
若有急復解茲囊口故到尾張用入座尾張之國
造之祖美夜受比賣之家乃雖思將婚亦思還上
之時將婚期定而幸于東國悉言向和平山河荒
神及不伏人等故尔到相武國之時其國造詐曰
於此野中有大沼住是沼中之神甚道速振神也
於是看行其神入座其野亦其國造火着其野故
知見欺而解開其姨倭比賣命之所給囊口而見
者火打有其裏於是先以其刃斫揆草以其火打
而打出火着向火而燒退還出皆切滅其國造等

即着火燒故於今謂燒野也自其入幸渡走水海
之時其渡神興浪迴船不得進渡尔其后名弟橋
比賣命曰之妾易御子而入海中御子者所遣之
政遂應覆奏將入海時以菅疊八重皮疊八重絹
疊八重敷波上而下坐其上於是其暴浪自伏御
船得進尔其后歌曰佐泥佐斯佐賀牟能袁能迹
毛由流肥能本那迹迹多知氏斗比斯岐美波毋
故七日之後其后御櫛依于海邊乃取其櫛作御
陵而治置也自其入幸悉言向荒夫流蝦夷等亦
平和山河荒神等而迂上幸時到足柄之坂本於
食御糧怨其坂神化白鹿而來立尔即以其咋蒜
片端待折者中其目乃打殺也故登立其坂三歎

詔云阿豆麻波夜故号其国謂阿豆麻也即自其
△国越出甲斐坐酒折宮之時歌曰迹比婆理都久
波久波袁須疑氏伊久用加泥都流尔其火燒之
老人統御哥以哥白迹賀那倍氏用迹波許許能
用比迹波登袁加袁是以譽其老人給東国造也
自其国越科野国乃言向科野之坂神而還來尾
張国入坐先日所期美夜受比賣之許於是献大
御食之時其美夜受比賣捧大酒盞以献中畧以
其力之草那藝劔置其美夜受比賣之許而取伊
服岐能山之神幸行於是詔茲山神者徒于直取
而膳其山之時白猪逢守山邊其大如牛尔為言
奉而詔是化白猪者其神使者雖今不殺還時將

殺而騰坐於是零大氷兩打惑倭建命故還下坐
之到玉倉部之清泉以息坐之時御心稍寤故号
其清泉謂寤居清泉也自其処到當藝野上之
時詔者吾心慎念自虛翔行然今吾足不得步成
當藝斯形故号其地謂當藝也自其地差少幸行
固甚疲衝御杖稍步故号謂杖衝坂也到坐尾津
前一松之許先御食之時所忘其地御刀不失猶
有尔御哥曰遠波理迹多陀迹牟迦幣流遠都能
佐岐那流比登都麻都比登迹阿理勢婆多知波
氣麻斯遠岐奴岐勢麻斯遠比登都麻都阿藝衰
△度會延佳若度紀鼈頭云按自伊勢国粟名郡入
來則經尾津次三三重次三杖衝坂次三能褒野

今之順路也由之考則自其地至杖衝坂也三
四字當在下之謂三重之下欵是ヨリ以下三重
郡杖衝坂及鈴鹿郡能褒野ニ夕リ玉ノ章句
公其條三載夕リ併考云云日本書紀景行天
皇御卷曰日本武尊東還於尾張即娶尾張氏之
女宮篁媛而淹留踰月於是聞近江國膽吹山有
荒神即解劍置於宮篁媛家而徒行之至膽吹山
山神化大蛇當道爰日本武尊不知主神化蛇之
謂是大蛇必荒神之使也既得殺主神其使者豈
足求乎因跨蛇猶行時山神之與雲零氷峯霧谷
曠無復可行之路乃樓惶不知其所跋跡然凌霧
強行方僅得出尚失意如醉因居山下之泉側乃

飲其水而醒之故号其泉曰若醉泉也以上日本記抄出日本武尊於是始有痛身然稍起之還於尾張爰不入宮萐媛之家便移伊勢而到尾津昔日本武尊向東之歲停尾津濱而進食是時解一劍置於松下遂忘而去今至於此劍猶存故哥曰烏波利珥多陀珥霧伽弊流北若菟麻菟阿波例比等菟麻菟北若珥阿利勢麻岐農岐勢摩之塢多知波開摩之塢此逮于能褒野云々鈴鹿郡能褒野下ニアリ古史紀及日本書記ニ相模國燒野或ハ駿河國燒津ト奉ラレタルハ今駿河州府中ノ城南三里ノ海瀕ニ燒津村アリ延喜式燒津神社坐又益頭郡以名天燒津ノ

訛傳ニ以日本書紀ニ葉等ニ燒津ニ作ル処トシ猶駿河州ニ填テ古史紀ニ相模トスルニ異ナリ今日本書紀ニ劬テ姑ク駿河ニ在トス又同卷ニヨリ千里許東ニ草薙村アリ武内草薙神社坐又延喜式有度郡ニ座ノ内ニ載タル処未ダ際神日本武尊ト各國史ニ扱テ其遺址ヲ崇敬スル処トシ是ハ概テ本州尾津神社ニ奉祀スル処トシ疑アリ勢陽雜記云尾津ト云ハ今ノ戶津村トシ溝野ト相並タル邑ナリ其松ノ劍挂ノ松ト云溝野戶津ノ間ニ古ハ塩入江トシ船ヲ往來シ侍ルトナリ今ハ海邊遙

人処十レ公實卦老難詳
万葉哥暗卦
伊勢語也美名
此溪の松枝
津路以高
大刀の
此哥之意十レハ海邊疑
度山中ヨリ流止番取川
河平二派落會七テ美濃州ヨリ出此多度川及
木曾川相會反類
料不少ル地言涉テ天十
乘名東海也此里至下流
今變異アリ本言入
渡前以先行紀行一所謂津
蓋蕪熱田日奎テ東街道通
又ナリ文曆建久

中相模州鎌倉ヨリ社路及
東征ヨリ前路北岸津ヨリ尾張
途至美濃州ヨリ此到リ鈴鹿郡
往復之地今村老相傳ハ此
馬場或須賀馬場又本邑東
古昔多度神船ヲ纜ニ
稱云其傍ニ一叢林アリ神船
ト云此地扱俗傳ト云ハ
所舍ニ尾張ニ相通ス渡口
雜記云其松ヲ劍懸松ト云
遺存ス北岸似夕リ上古ノ
老樹此ニ至リ活スハ

其跡... 今詳... 又... 其跡... 云云... 恐八
臆斷... 猶... 萬... 漢... 之濱... 云々... 哥... 世本類
本... 考索... 又... 未... 曾... 所見... 十... 勢阳雜記拾遺
古屋草紙等此... 劬... 引... 各... 十... 溝野戶
津隣北... 地... 載... 杖... 云... 其... 中間... 上下... 肱
江... 日... 三... 十... 六... 町... 許... 隔... 与... 世... 八... 肱... 江... 香... 取
溝野等村... 邑... 未... 置... 此... 几... 処... 又... 此... 二... 遊... 河... 屋
指... 外... 尾... 津... 崎... 称... 又... 其... 今... 此... 地... 勢... 又
海... 涯... 遠... 似... 尾... 張... 隔... 匪... 以... 知... 疑... 乃... 至... 止... 止... 止...
故... 再... 考... 證... 前... 今... 之... 長... 嶋... 古... 昔... 尾... 張... 州... 隸... 屬...
又... 海... 面... 相... 對... 數... 以... 强... 証... 日... 本... 武... 尊... 大... 御... 哥... 尊...
令... 改... 嶋... 波... 刺... 珥... 多... 陀... 珥... 霧... 伽... 幣... 流... 之... 言... 又... 摘... 尾...

津濱... 嶋... 地... 在... 今... 古... 矣... 微... 三
凶... 貴... 又... 人... 音... 亦... 云... 云... 云... 其... 地... 考... 索... 七... 又... 三... 于... 紙
上... 以... 空... 誕... 十... 訓... 然... 此... 井... 其... 尾... 津... 濱... 名... 亦... 長... 嶋
... 陰... 幸... 部... 夕... 訓... 遺... 氣... 又... 其... 其... 徵... 乃... 得... 九... 亦... 十... 三
尾... 津... 戶... 津... 相... 通... 越... 神... 鳳... 抄... 富... 津... 御... 厨... 後... 戶... 津
... 轉... 七... 並... 明... 延... 喜... 武... 尾... 津... 神... 社... 二... 座... 亦... 填... 止... 止...
日本武尊及其兒稚武彥命... 併祭... 下... 又... 此... 此...
杏地ノ夏蹟... 抑... 然... 稚武彥命... 之... 祀... 由... 由...
... 稚武彥尊... 八尾津君... 等... 祖... 也... 上... 載...
... 尾津君... 之... 姓... 族... 此... 居... 又... 其... 祖... 之... 奉... 祀...
... 延喜中... 以前... 人... 奉... 上... 見... 八... 夕...
... 勢阳雜記... 及... 勢阳雜記... 拾遺... 古屋草紙... 式... 社... 業...

内記等并考證從前各日本武尊稚武彥命二
座以奉祀又十云今此寺從前別論十二
戶津城跡以同怨二及以白河天皇之朝富津次
郎維綱住七ノ蘇加奈真如云新羅寺味
香取ノ戶津ノ東ニテ以香取川ノ北屋ニ傍テ民
居之度府ニ次更屬有之地ナリ每月六日市鄺
ヲ置テ近郷以庶民交易又方俗香取市縣稱又
前考以戶津同隣北及戶津言秋香取ニイテ以
所謂津嶋又涉豐渡口ナリ大津今以舟着十字
不知了以一信長記鹿取或賀鳥計記又撰者ノ
鹵莽ナリ香取ト稱又名義以常陸國鹿島香取
大神神護景雲元年鹿嶋曰以遷幸此地六到玉

七同庚午十月伊賀洲鷹生一遷坐以同二年大
和州安部山以歷元奈又春有山以鎮座第三殿
二天兒屋根命ヲ配ニ祀レリ其常陸曰以遷御
ノ時停坐以地以即此處以神社ヲ以テ香取
ト名ヲ帶以社今ノ產土神社祠以即延喜式業
名郡十五座ノ内中臣神社以地ナリ八ニ其故
以郡賦以香取ニ其社以存又奈以欽ト祭明也
以味香取川有リ小川ナリ東鑑卷五文治元
年十一月十三日辛卯條云今日河越重賴所領
寺被收公是依為義經緣者也其内伊勢國香取
大五箇郷大井兵三次郎實春賜之其外所者重賴
老母預之又下河辺四郎政義同被召放所領等

為重賴聲之故也
式內中臣神社其度會延經神名帳考證云中臣神
社天兒屋根命在乘名宿稱春日神社此乎今神
殿二字其一稱宮地三崎神土位中央與中臣同
香理相配古度記大香山戶臣神此也其度會正身
神名帳再考證云中臣神社今乘名宿中春日
社下云大社了少是耳續日本記云天平神護
二年中臣伊勢連大津大澤賜姓伊勢臣十乃
八此亦坐創天祀也欽祭神於天兒屋命也
今詳云又此延經考證云中臣神社ノ名義
抑所今乘名馭中其所祭者春日社也
此今神殿二字所居其一宮地三崎神土

稱宮地土位中央與中臣同義
又與神社名三配以大故古度記所
載大香山戶臣命十乃十云注十乃正身再考證
言中臣神社春日社相同也續日本紀引抑各
天平神護二年中臣伊勢大津三伊勢朝臣之姓
戶臣賜姓是少本州所居ノ中臣氏三又此人
之始考祭北延十乃十云解十乃愚按古勢
陽雜記及勢陽雜記拾遺社地未詳十又背書國
誌及神風徵古錄各中臣神社也今乘名春日社
相殿ニアリ市町ニ移ニ三崎明神ト同也三生
又外云式社案内記是日相同之各前考證也同
輒以東海道名所圖會云佐乃富神社室殿町

持統天皇行幸時三種神器此姑納
式之故御宝殿外稱不同社地
同地ニアリ延喜式内ナリ此ニ
社ハ今春日社異ニ後人此ニ
憶取中臣神社古昔本郡香取村
シト衆名郡賦ニ載夕リ是真
常陸那鹿島大神香取大神ノ護景雲元年鹿島
又ニ延喜ノ本郡ニイテ同
薦生ニ延喜ノ同二年伏和而安部山ヲ歷テ春
月山ニ鎮坐ニ抑リ第三殿ニ天兒屋命ヲ併祀
此ニ抑中臣氏ノ遠祖ナルカ故中臣神社
於此起大和ニ遷坐ニ次第ニ春日社傳及

神社考非ニ社注式ニ載夕リ即東國ヨリ延御
少時本郡停坐ノ地ニ即此本郡香取村ナルハ
之ニ謂クニ伊賀郡ニ既ニ所傳ナリ本郡ニ其
傳ヲ遺失スルニ至リテ云ク本郡ニ香取
ノ名此ニ抑リトスルニ然ル地ハ稱又ハキ
義ナシ故ニ郡賦ニ從テ中臣神社ハ香取村
在ル処ニ以後ニ衆名府ニ遷シ夕リト惟
シ又本府春日社傳云伏見天皇正應三年南
都春日明神ヲ衆名郡益田庄衆部ニ遷シ同永
仁三年八月益田庄ヨリ加良洲ノ内母山ノ地
ニ移スル云此ニ抑リ大和那春日社傳ト
異ニ本郡延喜ノ時奉祀スル所ニ非ス大倭

賜ヨリ此所遷祀此処ニ以中臣神社トハ異
ナリ神護景雲元年鎮座ヨリ五百二十四年後
ナリ猶延喜式ニ所撰中臣神社ト相距ルリ三
百九十年後ニ以正應三年本郡遷祀ルト云
片ノ春日社ハ中臣神社ト非ルハ必也リ混以
テ力ク又此故ニ今宝殿町ニ別ニ奉祀スル処
後人ノ所為ト云ハ其事實ヲ拠トスルハ足
レ以然レ其延喜中所定ノ式社ハ今曰墟ヲ
遺スルカ拠レリ或云今春日社大倭ヨリ本郡
桑部時遷スル云ハ桑名神社ヲ混取メ云ルナ
ルハ春日社云然レ其社傳ニ拠ルハ其地ニ春
日社ト在ス地年久職混スルキ固非ス此

拠テ後人諸家本郡桑名府春日社中臣神社ニ
大填ルカ妄ナリ各非トスヘシ其本墟ハ本郡香
大取村産出神ノ社ヲ中臣神社ニ填メキナリ旧
説ノ証ヘカラスト云ハ其徴ヲ考索シテ知ル

香取岩址 同処ニ子ノ文治年中加藤太景廉
今ノ旧領ニ以此部内北伊勢五郡ヲ掌シリト郡
南賦ニ載メリ享祿三年世古左京進居住セリ
下法泉寺 同処ニアリ天正十一年織田信雄ト
豊臣秀吉對陣ノ片ニ東照神君當寺ニ御在陣
ナリ此時百石ノ免除地ヲ賜ヒ御標紋ヲ許シ
賜ハル今ニ然リ詳ニ同郡矢田ノ條ニ載タリ

中須^ハ香取ノ川東岸アリ正稅四百八十九石

桑名領ナリ雜記中津ト録セリ度會郡ニ同

名アリ多度川ト木曾河ノ中間ニ所居故ニ中

須又名ト又ナルヘシ度會ノ中須也然リ故ニ

南郷ニ中須ノ良位ニ子少輪中七郷ノ内上郷ニ

隣此セリ上郷特對メ其西南所居故ニ名久

ナ北禁ニ正稅四百四十石桑名領ナリ

名江ノ南郷ノ巽位ニアリ正稅七百四十二石

桑名領ナリ

大鳥居^ニ南郷ノ坤位ニアリ古昔多度ノ神社以

其鳥居ヲ建營セ其地ハ二名ク今ハ其鳥居

ノ廢址ヲ遺址ナリ正稅七百七十四石桑名

領ナリ

大鳥居^ニ若蹟ニ同処ニ中須水谷與三兵衛尉光吉

住セリ元龜天正外間ナリ天正二年七月織田

信長同郡長嵩城征伐ノ時柴田修理亮稻葉伊

豫宗^ハ蜂谷兵庫頭當城ヲ擊テ其ノ寺廢亡セ

別信長記ニ詳ニ載セリ

今鳥居大鳥居ノ南海瀕ニアリ正稅九百三十

石桑名領ナリ

下野代^ニ中須ノ西ニアリ正稅九百二十六石

桑名領ナリ

大野^ニ又元祿四年然以今此地ヨリ三町許北ニ曰

地アリ是上古ノ野代ナリ故ニ對ニテ名ツク

中ナリ

式内野志理神社同知往還ノ衢ニナリ今俗春

日明神ト称ス祭神野槌神下深谷部村深江神

下社ヨリ乾位三土町度會延經神名帳考證云

南野志里神社野槌神志里知也言掌多氣郡水代

令大刀自神代字同義也今在野代大鳥居村野

代郷名也度會正身神名帳再考證云野志里

神社世紀云延幸于伊勢國桑名野代宮四年奉

齊の印野代村ヨリ御經行ノ地空

大宮ナルヲ後野槌神ヲ充祀レリナリ野代郷

大鳥井村ニナリ今詳示ス其延經考證ニ

野志里神社ノ名義ヲ撰テ志里ハ知ルナリ野

ヲ掌ルナリ云又多氣郡水代大刀自神ト同義

並メ今野代ト云モ知ト相合ス其野ヲ掌ルカ

天故ノ名ヲ撰テ野槌神ヲ祀ルナリト又即今野代

郷大鳥居村ニ在ス知ナリト云ハ注ナリ正身

再考證野志里神社ニ倭姫世紀云天照大神

延幸テ地野代宮村外野志里ト云ハ野代ニ相

同シ其延座ノ空宮ニ野槌神ヲ後ニ祀リテ此

ナリト云解ナリ今詳示ス此ニ既ニ倭姫命世

紀ニ桑名野代宮ニ載ル片ニ野代ハ旧名ナリ

ナリ知ハ野志里ハ後世ニ轉訛スル知ナリ

知ハカラヌト云ハ延喜式ニ所載ニ撰ルハ

後ニ轉訛ト所傳ニ從ヒテ載ラレタルナリ

然其野代地其前後對野後之名
知難之敢野之口以訛之非其故考
證之所解大鳥居村之アリト又其誤之再
考證天照大神遷幸之地其空宮野槌神ヲ
後人ノ奉祀スル処ト云ハ非ナリ此野志里神
社ノ域ト遷幸野代宮ノ旧址ハ殊異ナリ猶大
鳥居村ニ野志里神社ヲ真ニ所在ヲ得カト
今勢陽雜記拾遺背書國誌或社案内記等各下
野代村往還ノ衢ニ取リト云是の當氏謂ハ
雜記拾遺及背書國誌ニ天照大神尾張中島宮
遷幸ノ地ト云ハ非ナリ其野代宮從旧址ノ後
ニ置ルト以野後ノ名起ルト謂フハ祭

神少諸家野槌神ヲ奉祀スルニ別論ナリ故
三姑ク是ニ從フハ
天照大神遷幸野代宮旧址尾張中島郡山田
庄清須村ト云遷幸ノ本郡今野代村ト云北
東三町許田畝ノ間ニ叢林ト云字ハウフメト
稱ス地ト神明ノ森ト云此紀ニ四箇年奉
齋ヲ鈴鹿郡忍山宮今野村ニ遷幸アリト云
ナリ今野代宮ノ旧址ニ天照大神春日明神白
山權現千頭天王山王權現並祀リテ五社アリ
方俗大宮ト稱ス大神ヲ奉祀ニ大宮ト云ハ即
遷幸ノ地ヲ崇敬スルノ義ナリ然ルニ前
神名帳考正同再考證野志里神社ヲ遷幸ノ地

此稱之背書國誌云野代社祭神大日靈貴尊下
載九八此近幸曰墟ヲ不知ノ前人ノ謬傳ニ効
天野志里神社ニ混駁スルハ大ニ非ナリト謂
仁即位二年癸巳十年辛丑秋八月朔日近幸美
濃國伊久良河宮四年奉齊次近幸尾張國中葛
宮三箇月御座大倭姫命國保伎志給于時美濃
國造等舍人市主神進地口神田並御船一隻捧
船言者天曾已立抱船者天乃御都張止白天進
天波采女忍姫神亦進地口御田故尔忍姫乃子尔
天平寬公十枚繼作進十四年乙巳秋九月朔日
近幸于伊勢國桑名野代宮四年奉齊于時國造

大若子命參相奉御共奉社國內風俗令白支亦
國造建日方命參相支汝國名者何止倭姫命問
言久建日方命荅白久神風伊勢國住人止白次
造進舍人弟伊尔方神又地口神田並神戶亦大
若子命進舍人弟乙若子命次河俱乃縣造祖大
比古命參相支汝國名者何問賜白久味酒鈴鹿
國奈具波志忍山止白支然神宮造進令幸行奉
齊六箇月進神田並神戶云云內宮儀式帳云纏
向玉城宮御宇活目天皇御世倭姫內親王遠為
御杖代齊奉支云云次美濃伊久良賀宮坐只次
伊勢桑名野代宮坐只其宮坐時尔伊勢國造遠
祖建夷方乎汝國名何問賜白久神風伊勢國白

支即神御田並神戸進岐次鈴鹿外山宮坐岐彼
時川侯縣造等遠祖大北古乎汝國名何問賜只
白久味酒鈴鹿國登白支其即神御田並神戸進
岐云云
神祇百首
勢陽雜記荒木田元長誤此以元長而元長
記ノ作者ニ又度會姓ノ相官ナリ此哥ノ意ヲ
按スルニ既行大神近幸久旧墟瓦荒蕪トナリ
土民ノ偲仰天妄ナリ嗟嘆スルニ義ナリ
歲ノ後ハ吳區毛所傳ノ遺ト云セリ至北門
之故ヲ標出ハ後昆ニ傳ハレ謂ク包合由也

野代山德蓮寺人同処アリ伊勢國順禮第三
番本尊聖觀世音又虚空藏菩薩ヲ安置又
吳驗アリテ一火一願ヲ納受ス鰻鯰等ヲ年々
限リテ禁断ス俗習アリ方俗野代ハ虚空藏ト
称シ諸人多ク泊止本邑ニ無畏野山室光院中
大蓮寺大刹アリ本尊虚空藏弘法大師作及阿弥
陀寺即自院西道院藥師寺ノ五宇アリ天正元
龜中織田信長々寫征伐ノ時寇火ニ焦土トナ
ル皆瘞セリ中蓮寺ハ其災ヲ遁レテ慶安年中
迄存在セリト又洪水ニ瘞セリ萬治元年再興
ニテ中蓮寺ノ旧号ヲアラタメテ無畏野山德
蓮寺ト名ケタリ今存スル処ナリ

溝野 素名府乾位二里野代八坤位八丁ニアリ
山川ニ傍テ民居ス溝野ノ名ハ河渠ニ拠ル者
ナリハニ一御衣野ト記又輕薄生ハ倭武尊ハ
岐奴岐勢麻斯衣ノ御哥ニ拠テ杜撰セリナリ
後号ニ詳クカニ又正税六百八十二石素名
領ナリ自前山田郡ニ在リ
式内佐乃富神社本同処三序以祭神保食神穴田
其リ凡十五町郊野又砂山ヲ踰テ一里許又山谷
ヲ入テ十丁余ニ本邑ニハ古方俗ハ釵宮ト称
ス又度會延經神名帳考證云素蓋烏尊按佐乃
富曾佐之男也上畧曾字御衣野村称ハ釵宮此
乎曾与佐音通ハ釵称蛇尾有ハ岐出釵實祀素

蓋烏尊之灵徳也度會正身神名帳再考證云
佐乃富ノ名義狹野田ナリ由ヲ知テ訓スルハ
日本紀卷二粟田豆田ヲ云テ以テ下訓ニ
園生蓬生ノ云テ行島ト云今其社地ヲ野田村
ト云所祀保食神ナリ今詳クスルハ勢阳雜
記拾遺式社案内記等溝野村ニ在テ祭神素蓋
烏尊方俗ハ釵宮ト称ス各相同テ古屋草紙
云祭神雜武彦命素名奥所側ニ在テ伊勢名所
圖會共ニ同又背書國誌佐野神社式外素名三
崎ニ下リ祭神手力雄命勢阳雜記同拾遺案内
記素蓋烏尊トスルハ神名帳考證云佐乃富
曾佐之男也猶後世ハ釵宮ト称ス北ニ拠レリ

古屋草紙推武彦命下云本郡尾津神社二日
本武尊下合祀スルニ及テ又此神社三重復ス
ルノ謂ナシ非ナリ然レ其葉名魚町ノ側ニ
リト云ハ當今葉名府宝殿町ニ佐乃富神社中
臣神社同域ニ祭ルナリ前ノ中臣神社ハ香取及
益田庄葉部曰ク後世ニイテ此地ニ移テ佐
乃富神社ニ此地ノ遼遠ナリ故ニ本府ニ奉
祀スルナリナリ知テ其旧地ヲ不記ハ遺憾ナ
リ國誌所言之佐野神社天手力雄命ト云ルハ
妄ナリ論スルニ不及又其社ヲハ劔宮ト稱ス
ルハ日本武尊東征ノ時伊勢大神宮ニ入テ其
姨倭比賣命所賜ノ草那藝劔ヲ以テ相摸國ニ

至リ玉夕時以其力ヲ拵草退出テ國造等ヲ切
滅スル由ハ古事紀日本書紀ニ載タリ其前
本郡尾津寄ニ到坐ス御食ノ間ニ御刀ヲ其地
ニ忘レテ東征ニ歸ルニ未タ夫ハ不歌白哀波
理迹多陀迹牟迦弊流哀都能佐岐比登迹阿理
勢波多知波氣麻斯哀岐奴岐勢麻斯哀比登都
麻郡阿藝表云云其力ハ草薙劔ト異ニテ自帶
スル処ヲ御刀ト云ルハ然レハ草薙ノ名アル
ニ非ス然ルニ神名帳考證ハ劔稱蛇尾有ハ岐
出劔ト云ハ妄ナリ俗稱ハ劔宮ト云ハ拘泥
メ祭神ハ素盞烏尊ト決定スルニ恐ハ臆断ナ
リ此俗稱ハ既ニ草薙劔ヲ奉祀スル尾張熱田

神社ニモ八劔宮ト稱スルヲ此ニ傳習以方
民ノ私稱スル処ナリ必セリ猶溝野ヲ御衣
野ト前ノ素蓋烏尊ノ御歌岐奴岐勢麻斯衣ノ
松樹ヲ咏スルノ言ヲ采テ好変者流ノ設タル
妄言ナリ溝野ハ濁音其田澤ノ間茲居スルヲ
以テ名タルナリ其地勢阳雜記云戸津村占溝
野ト並タル邑ナリト前條ニ記スルニ非ナリ
今其地ヲ閱スルニ溝野ヨリ戸津ニ至ルニ九
町ヲ隔テリ此等以前説テ以テ諸家ニ八劔宮
ノ名ニ拠テ祭神素蓋烏尊ト云ハ草薙劔ノ因
ヲ以テスルハ各臆断ナリ神名帳再考証狹野
田ニテ其穀ヲ司ル保食神ヲ奉祀スルト云

前非ヲ折テ確論ナリト不ハ私言ニメ証ヲ
得難シ然レ此地素蓋烏尊ニ所縁アルハ姑ク
考証ニ從テ進雄命トモ云ヘシ多氣窗堂云
むうノ名門のそれを昔田やいふはるのそ
高府ノ本名と云ハけり權曰正行其藝
をつく高名れのり志りよなりこれ正行を
白河院乃上北面源正親の子を傳高國素蓋の
人なる由ハくまたのさくらんをいひりる
まゝ宅を棄てた演をいふをれより不而本
あゝ馬場を立々諸國此人をあり免れしハ
ゆるふを今れ世々も伊勢此をとりあを此
なつれなりやうやうなるに上りて

兼好徒然草云吉田や中馬此の中侍りり
るらやよこハ記物たり人あゆありふへ
られと志る魚一のりへきたるをまげり
て強きと云路より前を初るへ次は響
のやと阿やう執るや阿やうと云ふは
事阿やうをすはすへりて阿やうを忘れ
さるると云ふ中かよふに秘蔵のり
中記愚按吉田ト云馬術者姓名ハ未詳
然し凡其本拠ヲ此ニ奉テ徵ス白河院天皇上
北面正親カ男源正行本府ノ人ニメ衆名述キ
伊曾野ニ居ヌト云今伊曾野地考へキカシ
恐抄ハ勢阳雜記所引ノ俗哥ニ伊勢阿やう

此ハ漢云云即今ノ溝野ハ旧名ニ伊曾野美
曾之相同ク後ニ溝野ニ轉訛ヒシト憶ヘリ孰
レ此地ノ海厓適キ処ナリト云ハ勢阳雜
記ニ日本景行紀ヲ引拠メ五十二年十二月從
東國退之居伊勢是謂綺宮當村ニ古觀音ト云
処ニ矢篋竹アリ行宮ノ墓目ニ矢篋ニ用タリ
今アル処ノ觀音ハ中堂ト云ハ産屋ハ日本武
尊ノ子孫ニテ草薙忠左工門ト号ス尊潛幸ノ
トキ供奉人ノユノ処ニ居メ其子孫ナレハ
又十五町巽ニ御沙村ト云アリ天皇行幸ノ時
行宮ノ砂ヲ献リ又キニ山ト云ハ天皇ノ御
衣ヲ織タル山ト云云今詳ニスルニ景行天

皇綺宮ノ地ハ此処ニ非ス然レハ矢筈行ノ説
モ孟浪ナリ御沙ハ深谷部村ノ支郷ナリ天武
持統聖武三帝ノ行宮本郡ニ旧址アリハ孰レ
然ル由縁アルハニ草薙氏ハ後號ヲ載ス方俗
ノ僻説ハ往々如斯多シ一得モ有ト不ハ氏又
一失アリ審ニスヘシ景行帝綺宮ハ鈴鹿郡高
宮條ニ辨セリ
式外縣明神ノ諏訪神祠同処ニナリ
溝野城址同処ニナリ淡川出雲守曰ハ信濃
郡ヨリ來住セリ一名草薙ト稱ス其裔長間
下リテ城地ニ廢セリ衆名郡賦ニ載アリ今考
ルニ佐乃富神社ノ地ニ因テ草薙ノ家稱ナリ也

ミナリ前ニ云村正草薙氏モ其胤ナリハニ
上深谷部ニ溝野ノ東ニアリ衆名府ヨリ濃
イタル街道ナリ正統六百八十三石衆名領
ナリ旧名塚村ニ云テ属邑御砂アリ
兩尾山飛鳥寺下深谷部村深江神社ヨリ六
丁真言宗本尊十一面觀音行基大志作伊勢國
順禮第三十二番ノ歌云
雨ノ屋瓦乃風吹テ
雜記ニ飛來ルトナリ傳寫ノ失ナリハニ古昔
ハ大刹ナリシカ今ハ廢メ小ナリト云ト云衆
名郡賦ニ載アリ
式外森明神若交明神同処ニナリ

延長伊勢國風土紀曰神戶因此山多出桃花少
而其實大如雞卵土民食之無病又商賈之入神
戶因神戶山氏稱之桃木谷十云今存七里來
名神社ノ領ナリ神戶ノ名ニ抑テ然リト又郡
賦ニ載夕ノ和銅風土記此條十三風土記蠹簡
藉以全編十三世本類本多ニ又後世異端ヲ
好真者引抑長ノ一虛妄往改其惑ナカク又
堺城跡同処ニアリ片岡掃部亮居セリ元龜
天正ノ間ナリ信長記及信長譜ニ載夕リ信長
下深谷部上深谷部ノ南ニアリ正稅五百八
十石粟名領ナリ東曰名深江ナリ後世深
谷部ト轉セリナリ

式内深江神社書同処ニアリ方俗今深谷部大
明神ト稱ス祭神宇賀乃賣命尾津社ヨリ乾位
去リ一里余ニ度會延經神名帳考証云深江神
社宇加乃賣命在深谷部村宇賀布加音通ス
度會正身神名帳再考証云深江神社古地深谷
部村ニ在祀神水吳今詳ニ以テ深江ニ曰
名ニメ深谷部ハ後世ニ訛ルナリ延經所謂宇
加ハ布加ニ音訓通長ルヲ以テ祭神宇賀乃賣
命ト云ハ鑿說ナリ曰昔此地平來名郡同ノ所
居ナリ故ニ此神社旧名縣明神ト稱ス來名郡
賦紀由章力所言ナリ然ル片ハ宇加以通音
ニ非ヌメ其郡縣ノ倉廩ノ在ル処ニメ穀神宇

賀乃賣命ヲ祀ルハ必セリ古屋草紙深谷神社
ニ誤ル然レ宇賀御魂命ヲ祭ルトス勢陽雜記
拾遺沢江ニ誤ル背書國誌ニ宇賀比賣命ヲ祭
ル式社案内記上ニ同言各前輩考証ニ劬テ別
ニ論テ然レ正身再考證ニ祀神氷夷ト云六
排スルト不レ其深江及深谷部ノ地名隨從
ヒテ江淮ノ地ト誤リテ水神ヲ祭レト云十
ルハニ非ナリ前説言擬テ宇加乃賣命ヲ奉祀
スルト明ナリ
功德山阿弥陀廢寺ト同処ニテリ京都泉涌寺
ノ末ニメ律院ナリ相傳テ肉付テ佛舍利此寺
ニ伴糞ト云其寺廢メ旧址ヲ字云本堂ト云由

圃ノ間ニアリ其土豈犯セ六指ノ兒ヲ産ス
トテ農民畏レテ避テ今神田ニ附メ六指曲ト
稱ス山城國泉涌寺佛舍利縁起曰佛牙舍利
ノ由來ハ釈尊涅槃ノ時羅刹足疾鬼間ニ窺テ
佛牙ヲ掠奪ヒ走タルヲ韋陀天降伏ヲ加ヘ取
停メ昼夜恭敬メ身ヲ放玉メ佛滅後一千六
百餘年ヲ經テ大唐白蓮寺道宣律師戒香薰修
ノ眞感ニ通ニケルニヤ韋陀天形ヲ現シ玉七
三飯八戒ヲ受其報恩ニ此佛牙ヲ授玉メ以テ
ヨリ人間ニ傳ハリ白蓮寺ニ收メ宝函ニ秘シ
ケル日本ニ渡玉フノハ當山中興俊菰律師ノ
末弟湛海嚮ニ我師ト入宋ノ芳跡ヲ慕テ白蓮

寺に詣り舍利ヲ蒸礼ニ仰信ヲ餘リ竊ニ古老ノ碩徳ヲ語ヒ懇望スト不レハ佛舍利ノ利生他ニ異ニメ官家ノ崇敬厚ク守護嚴重ナル力故ニ將來ノ望達也又空ク帰朝セリ志願猶止一十ク再レ入唐ニ二階ニ樓閣ニ重塔婆ヲ構テ舳艫ヲ滄溟ニ浮ハシ江隱軍ニ到リカニ白蓮寺ノ修造不月メ成修シ大衆等甚深ニ志ヲ感シ其徳凡クニ非セルヲ知テ酬答只來賓ニ任スハ未ヨク衆命同ナリ以カニ万里渡海大ニ本懐ハ偏ニ佛舍利ヲ求請シテ少再來朝ノ素願舍利ノ利益ニ及リト具ニ述レハ怒佛牙固附属セラレタリ觀喜ノ泪ヲ枯メカキテ

帰帆ニ纜ヲ解キ故ナク彼舍利ヲ本朝ニ移シ當寺ノ本師ト崇メ收ムト云云俊苧法師名ハ我禪ヲレヨリ以來天台真言律禪ノ四宗兼學又凡ク寺社ノ所傳縁起ハ濟度結縁多端ニ設ル如ク其真ニ得難ニト不レハ氏復實所拠以考索ハ一助ニメ後世混惑ノ患ヲ稍ク避ニカ為ニコトニ贅ス後條コレニ準知スヘシニ下深谷部城趾ニ同処柳ノ島ト云知シ安藤左京進松田某居ス若跡アリ又深谷部監物永禄十一年織田右府信長ノ為ニ滅ス其跡アリ或御砂ニ玉江四郎左門尉住セリ永禄中ニテ存在セシト云跡アリ云玉井今不詳

北羽佐間 上深谷部ノ南下深谷部ノ間ニアリ
間ハ字ヲハサト訓ス西邑ノ中間ノ名称ナ
ルハ志摩郡及度會郡ニ同名アリ迫間ト記
セリ北邑ノミナリ南羽佐間ノ村邑十三下
野代ノ例如ク旧時ハ深谷部ニ属ス又北
ニ雜記ニ不載明曆中ヨリ後ニ所置ナリ正
稅五百八十石兼名領ナリ
北羽佐間岩蹟真同処アリ近藤右京亮住ス
処ナリ郡賦年載改訛無法ハ然ルモ
真城 下深谷部ノ西ニアリ山間ニ傍テ民居ス
正稅五百八十石兼名領ナリ雜記不載明曆中
ヨリ以後所置ナルハ真城以名ハ城跡ハ存

スルニ抑レリ旧ハ深谷部ノ属邑ニメ後ニ分
置タルナリ

柿塚 下深谷部ノ南ニアリ正稅三百四十五
石兼名領ナリ明曆中圖ニ坂塚新田ト載ス
雜記柿塚ニ作ル同処ニ持統天皇行宮ノ跡
ト云寺院一字古柳樹一株アリ楊柳寺ト号ス
今ハ兼名府新屋敷ニ移セリ

勢阳五鈴遺響兼名郡卷之二終

又曰 十月壬申任造伊勢國行宮司

又曰 十月壬戌大將軍東人等言逆賊藤原廣嗣卒衆

一萬許騎到板櫃河廣嗣自率隼人軍為前鋒即

編木為舟將渡河于時佐伯宿祢常人安倍朝臣

虫磨癸弩射之廣嗣衆却到河西常人等率軍士

六千餘人陣于河東即令隼人等所隨逆人廣嗣

拒捍官軍者非直滅其身罪及妻子親族者則廣

嗣所率隼人並兵等不取癸箭于時常人等呼廣

嗣十度而猶不荅良久廣嗣乘馬出來云義勅使

到來其勅使者為誰常人等荅云勅使衛門督佐

伯大夫式部少輔安倍大夫今在此問者廣嗣云

而今忽勅使即下馬兩段再拜申云廣嗣不敢捍

朝命但請延亂人二人耳廣嗣敢捍朝廷者天神

地祇罰殺常人等云為賜勅符喚大宰典已上何

故癸兵捍來廣嗣不能辨荅乘馬却還時隼人三

人直從河中泳來降服則朝廷所遺隼人等扶救

遂得著岸仍降服隼人二十人廣嗣之衆十騎許

來歸官軍獲虜器械別又降服隼人ヲ君多理

志佐申云逆賊廣嗣謀云從三道往即廣嗣自率

大隅薩摩筑前豐後等國軍合五千人許從豐後

國往多胡古麻呂從田河道往但廣嗣之衆到來

鎮所網手多胡古麻呂到

又曰壬申任造伊勢國行宮司

又曰丙子任次第司以從四位上塩燒王為御前

長官從四位下石河王為御後長官正五位下藤
原朝臣仲麻呂為前騎兵大將軍正五位下紀朝
臣麻路為從騎兵大將軍徵發騎兵東西史部奏
忌寸等總四百人
又曰己卯勅大將軍大野朝臣東人等曰朕緣有
所意今月之末暫往關東雖非其時莫不能已將
軍知之不須驚怖
又曰壬午行幸伊勢國以知大政官兼式部卿
正三位鈴鹿王兵部卿兼中衛大將正四位下藤
原豐成為留守是日到山邊郡竹谿村掘越頓宮
又曰癸未車駕到伊賀國名張郡
又曰十一月甲申到伊賀郡安保頓宮宿太兩途

泥火馬疲煩
又曰乙酉到伊勢國壹志郡河口頓宮謂之關宮
也
又曰丙戌遣少納言從五位下大井王并中臣忌
部等奉幣帛於大神宮車駕停御關宮十箇日是
日大將軍東人等言進士无位安倍朝臣黑磨以
今月二十二日丙子捕獲賊廣嗣於松浦郡值嘉
葛長野村詔報今覽十月二十九日奏知捕得逆
賊廣嗣其罪顯處不在可疑宜依法處決然後奏
聞
又曰丁亥遊獵于和逢野免當國今年租
又曰戊子大將軍東人等言以今月十日於肥前

國松浦郡斬廣嗣綱手已訖管成以下從人以上
及僧二人者禁止身置大宰府其歷名加別
又曰乙未從河口癸到壹志郡宿
又曰丙酉進至鈴鹿郡赤坂頓宮
又曰丙午從赤坂癸到朝明郡
又曰戊申至兼名郡石占頓宮
又曰己酉到美濃國當位郡
又曰庚戌賜伊勢國高年百姓百歲以下八十歲
以上者大稅各有差
又曰十二月癸丑朔到不破郡不破頓宮
又曰丙辰解騎兵回令還不京
又曰丁巳賜美濃國郡司及百姓有勞動者一級

又曰戊午從不破癸至坂田郡橫川頓宮是日右
大臣橘宿禰諸兄在前而癸經畧山背國相良郡
恭仁鄉以擬遷都故也
又曰己未從橫川癸到天上頓宮
又曰辛酉從犬上癸到蒲生郡宿
又曰壬戌從蒲生郡宿癸到野湯頓宮
又曰癸亥從野湯癸到志賀郡木津頓宮
又曰乙丑幸志賀山寺礼佛
又曰丙寅賜近江國郡司位一級從木津癸到山
背國相樂郡玉井頓宮
又曰丁卯皇帝在前幸恭仁宮始作京都大上天
皇皇后在後而至同第十四天平十三年九月

乙卯勅以京都新迁大赦天下中畧又縁逆人廣
嗣入罪者咸從原免又大養德伊賀伊勢美濃
近江山背等國供奉行宮之郡勿收今年之調以
正四位下智努王正四位上巨勢朝臣奈氏麻呂
二人造宮郷
又曰十一月戊辰右大臣橘宿禰諸兄奏為此問
朝廷以何名号傳於万代天皇勅曰号为大養德
恭仁大宮也愚按曰天平十二年十月壬午聖
武天皇廣嗣於乱ヲ避テ本邦潜幸ニ及濃
不夕リ又江ノ初ヲ經テ山城郡恭仁宮ニ至リ
玉ヲ既ニ國史ニ著明ナリ大和郡竹谷村ノ行
宮曰伊賀郡名張郡及伊賀郡安保ノ頓宮ニ

西ニイタリ本邦志郡川口ノ頓宮及和遅野ニ
遊覽ニ河口ヨリ志郡ノ頓宮ニイタリ鈴
鹿郡関ノ赤坂ヨリ朝明郡志氏ノ頓宮ニ移リ
兼名郡石占ノ頓宮ニイタリ兼名ヨリ濃郡多
藝郡ニイタリ又不破郡垂井ノ馭南今御所野
ト称ス頓宮ニイタリ江ノ初ヲ經テ相樂郡
恭仁ノ宮ニ還幸ナリ本邦潜幸ノ地ニ各條ニ
詳ニセリ併考スヘシ
恭仁宮ノ旧址ハ山城郡相樂郡瓶ノ原村鹿背
山ニアリ新續古今及新勅撰ニ載タリ兼氏
いづれ川いつより人此す流て了の都をあれみけん
讀人志

久々此京久遠の跡々可きより大なるのうらまゐれを

新拾遺 土御門院御製

吹風むししをのちあつらん久遠の跡々のうらまゐれを

今詳ニスルニ本郡蛸塚揚柳寺ノ地持統天皇
行宮ノ跡トスルハ恐クハ謬傳ナリ其故ハ天
武天皇行宮ノ旧墟既ニ本郡本願寺村ニアリ
皇后ノ行宮其地ヲ異ニメ蛸塚ニアルハキニ
非ス即聖武天皇石占頓宮ノ地ナルヘシ故ニ
此舉テ考索ヲ俟モノナリ猶古屋草紙天武天
皇行宮ノ址本郡江場ニアリト云モ此ヲ誤傳
タルナルヘシ此地江場ニ延ニ
西込上ノ柿塚ノ南ニアリ方俗相傳前條多度山

ノ崇ニヨリ洪水ノトキ波濤ニ込リ土タル地

ニハニ名ツク正統三百二十石粟名領ナリ

東込上ノ西込上ノ東ニアリ正統七百二十石

粟名領ナリ名義前説ニ同シ

中村ノ下深谷部ノ東ニアリ正統五百四十石

粟名領ナリ雜記不載明曆中圖ニ亡シ明曆

ヨリ以後所置ナルヘシ

上輪 東込上ノ東ニアリ海瀕ニ民居ス正統

八百三十四石粟名領ナリ雜記及明曆中圖

ニ不載上輪新田ト称スレハ明曆ヨリ後ニ所

置ナルヘシ上ノ輪ノ称ハ浦端ト同ク海瀕

ノ端ヲ云上ハ下ノ輪七郷ニ對メノ名ナルヘ

シ
大山田 西汰上ノ南ニアリ雜記明曆圖片ニ大
山新田ニ後世作ル古屋草紙小山田ニ謬レリ
正税二百九十石桑名領ナリ
播磨 大山田ノ坤位ニアリ正税九十五石雜
記ニ播磨新田上録セリ
福島 播磨ノ巽位海瀕ニアリ正税三百七十
中三石桑名領ナリ大山田播磨福島三色凡各
後世ノ新田処ナリ福島川アリ小川ナリ
東中江城址同処ニアリ森小一郎同清十郎又
中江式部少輔城居セリ此城ノ遺蹟太閤記ニ
載タリ古考傳ニ多度神社神木ヲ伐テ此城門

ノ扉ヲ修造セシニ變異アリテ此家絶廢ニ夕
ル丁多度神社ノ條ニ載タリ雜記所載桑名城
ノ扉ヲ修造ス片其臣命ヲ奉テ中江清十郎カ
伐採カ故ニ其屋舎ヲ壞テ田沼ノ地ニ變セシ
ムト云今考ルニ桑名府城ニ非ス訛傳ナリ伊
勢軍記云天正二甲戌年七月信長公信忠公數
万騎ヲ引率メ長島一揆退治ノ為祭向ニ玉ヲ
東篠島大島井大島中江此四方所ハ信雄信孝信
兼其外諸率リシ々々ニ指向玉ヲ長島ハハ信
長篠本ヲ以テ押寄セ玉ヲ云云 又同十二甲
申年十月既ニ信雄ト秀吉鋒盾ニ及ヒ秀吉ハ
羽津ニ在陣ニ繩生城ニハ蒲生飛彈守桑部城

二ハ蜂須賀彦右工門尉ヲ守ラセ信雄ハ中江
ニ着陣メ濱田城ニ滝川下總守棄名城ハ坂井
左工門尉石川伯耆守ヲ入置ル云々以下矢田
川原和睦ノ條ニ詳ニセリ
東方ニ福嶋ノ西ニアリ一名本卜村ト称ス棄名
府ヨリ西北町才属邑船戸田宮アリ正統五百
五十九石棄名領ナリ船戸ハ東方ノ北ニアリ
田宮ハ東方ノ南ニ居ス東方ハ西方ニ對ス名
義ナリ
神宝山法皇院大福田寺東方村ニアリ真言
宗洛西仁和寺御末本尊阿弥陀佛安阿弥作
生涯ノ灵作本朝三軀ノ其一ナリ毎月十五日

関龕詣又羣スニ脇檀右正観音長ニ尺三寸五
分誓文會誓首勲作寺傳云寛平法皇持念ノ
本尊行幸ノ時富山ニ寄附ス脇檀左寛平法
皇宸影ヲ安置ス其外本堂内灵佛多シ聖天
堂本堂ハ南ニアリ醍醐三宝院宮報恩院法印
持念ノ尊貌ニメ灵験アリ常ニ詣人多シ鎮
守天照大神門前ノ山腹ニ鎮座入什貨八相成
道ノ画圖聖徳太子筆第一ノ什宝妙相鮮明ニ
メ奇物ナリ十六善神画聖武天皇寄附也
金剛子念珠寛平法皇持物寺領倫旨後宇多
帝勅賜八佛曼陀羅淳和帝寄附金剛界大
日像同上文殊師利同画影興教大師作

紺紙金泥竟女施絶光明皇后筆當山縁起西
三条内府實隆筆其餘數品什貨アリ寺傳
云當山創立ハ用明天皇御宇聖德太子ノ草創
ナリ其後天武持統ノ二帝行幸又般若會仁王
會アリ聖武天皇大神宮奉幣ノ時當山ニ行幸
アリ千僧法樂會ヲ執行シ弘法大師一夏安居
メ三蜜ノ法ヲ修シ真言ノ道場トス淳和帝ノ
御宇勅願真言ノ梵刹トシ寛平法皇多大神宮
ニ法樂ヲ修セシトテ當寺ニ行幸アリ太神ノ
影向ヲ仰キ期玉ヒ月ヲ累日ヲ經テユノニ遊
觀シ玉フ因茲方大室ヲ行宮トメ法皇院ト号
ス後冷泉帝永養七年正月行幸アリ一千僧ヲ

聚テ勅會シ讀經アリ其後弘安元年天災ニ罹
リ灰燼トナル中興伊勢長官額田部大和守實
隆神託ヲ蒙リ忍性上人興正菩薩ノ上足タリ
此時真言律院トス此上人ト同心メ再建ニ及
福田寺ト號ス故ニ忍性ヲ中興トス神託ノ灵
應ニ叡聞ニ達シ後宇多天皇勅願寺務ノ詔ヲ
賜フ足利將軍尊氏當山ヲ尊信メ大人字ヲ加
テ大福田寺ト称ス世俗大寺ト称セリ其後明
應年中ヨリ天正年中ニイタリ數回ノ兵燹ニ
罹リ往昔ハ南伊勢山田ニアリテ神宮寺タリ
唯一トナルニ因テ桑名郡ニ遷レリ近世方治
三年ニイタリ安永村江場村ノ中間ニアリ今

東海道ニ大福村アリ是當寺ノ惣門ヲ建タル
如ナリ故ニ大門村トモ稱ス然レハ北伊勢ニ
於テ勅願ノ灵場真言ノ古刹無双ナリ古昔ハ
塔頭三十七院末寺四十餘寺アリテルナリ縁
大意今詮スルニ天武持統ノ二帝至申乱ニ鈴
鹿郡三重朝明及員辨桑名郡ニ至リ美濃郡ニ
潛幸ノ遺蹟ヲ國史ニ明ナリ大神宮ニ行幸ノ
事ハ日本書紀天武帝紀ニ曾テナシ又聖武帝
モ大神宮行幸ノ遺蹟續日本紀ニ不載也ナリ
宇多天皇境平法皇又行幸ノ事ヲ檢スルニ光
孝天皇仁和三三年八月廿二日代實録ニ載ス
宇多帝即位仁和四年又リ冷泉天皇安和二年

ニ年夕リ百練抄第一第二第三官本及世本
漏脱其傳ヲ失セリ故ニ稽考スル也又
又伊勢神官額田部姓ナシ况ヤ其長官夕ル
録又伊勢神官額田部姓ナシ况ヤ其長官夕ル
禊宜補任ニ曾テ所見ナシ往昔太神宮寺ナ
ルカ故ニ南伊勢山田ニ存世ス外云片ハ天武
及持統聖武ノ三帝桑名行幸ハ國史ニ著明ナ
リトイヘ凡太神宮ニ行幸ナキトキハ其山田
ニ所在ノ寺塔ニ詣スヘキハナシ其理必然ナ
リ旧ヨリ桑名府南今ノ大福村ニ存在スト謂
フ片ハ其由無ニシテ非ス然レハ寺記ハ悉ク
信ニガタシ凡テ寺社縁起ハ古今ノ遺蹟ヲ不

辨メ妄ニ編スル者多シ其謬傳ハ姑ク闕テ其
驗奇應ハ其偈仰ニ隨テ信スヘシ崇ムヘシ
郡賦ニ神宮造替ノ勸化帳ノ前序ト云曰キヲ
藏セリ又神戶ノアリシ地ニ此処ニ寺ニ
近シタルト謂ハリ孰レ今詳ニスルニ桑名郡
神戶ノ御厨ノ地ナルハ然ル故ニ大神ヲ奉
祀ス神祠ヲ鎮坐神トシ又大福ニモ其神祠ノ
遺址アリト云云真トスヘシ此書ハ神宮造替
式内尾野神社同処若内小野山ニアリ桑名府
ヨリ乾位二十町方俗舟着大明神ト称ス下
深谷部深江神社ヨリ田間ヲ歴蛸塚新田ヲ左
ニ望ミ田野ヲ過西込上東込上ヲ左ニメ田間

ヲ塵播磨村ヲ右ニ望砂川ヲ涉リ石橋アリ此
処ヲ小野々古江ト云ニ坐ス度會延經神名
帳考證云尾野神社素蓋鳥尊上畧素蓋二字歟
今称寶田船著神社在東方村尾野入江去桑名
宿乾二十町許也日本紀云素蓋鳥尊曰杉及櫛
樟可以爲淳寶度會正身神名帳再考証云尾
野神社々号小野ナリ尾ノ假字古ハ和ニ非
ス知ヲ用ヘシ祀神野槌歟杜地桑名ヨリ乾北
町許東方村小野入江ト云処ニ在今詳ニスル
ニ延經云尾野ノ名義ハ素蓋ヲ畧メ鳥ヲ奉テ
謂フ処ナリハ船着明神ノ名呼アルニ槌リ
日本紀ノ淳寶ハ其尊ノ言ヲ以テ暗ニ合スト

メ素盞烏尊ヲ祀ル云々今詳ナラズ是ニ拠
テ後輩各素盞烏尊ヲ祀レリト從ヘリ式社案
内記ニ然リ附會ノ説ニメ至當トシガ夕正
身所謂小野ハ社号ナリ小野ニ從テ祀神野
槌神ナリハシト稍ク真ヲ得夕リト謂ハシ然
レニ其地ヲ不探メ小野ト云ハ憾ナリ今
其地方ヲ閱スルニ桑名府城ヨリ二十町乾位
東方村走井山ノ東ニアリ小野山ト稱ス西位
ハ走井山脉ニ連リ東ハ田野ニ民居ス故ニ曰
名尾野ハ其山嶺ヲ尾ト云其山ニ続キタル荒
野ト云ナルヘシ式ノ正名尾野ニ填ルハ証
カラサレバ知ナリ又尾野浦ト稱ス故ニ舟着

名原山其故津負辨川ノ下流本郡所屋川ト
西別所川ヲ二岐落合ニ処ニ江沼河江トシ
古昔ハ此地ニ負辨川ニ沂ル船ノ纜キタルモ
アルヘシ今亦不然ト云ハ此名アルヲ抑レ
ル或本名所小野古江ハ此地ナリト方俗ハ賞
也然レ其實ハ多氣郡大淀ニ隸レリ其條併
考ヘシ其小野ノ地ニ所祀ノ神社ニメ尾野ニ
對メ野槌神ヲ奉祀スト云ハ臆説ト云ハトモ
近キニ似タリ姑ク從フヘシ
小野砦址ニ同処ニアリ尾野山正齊房ト稱ス
兎惡ノ僧當社ノ別當ナリニカ此処ニ城砦ヲ
築キ桑名近郷ヲ領ス永祿天正ノ間織田信長

ノ為ニ廢城セリ又永祿年中建部掃部介東方
ニ住セリ城砦ノ遺趾アリ東方殿ノ稱セリ十
リ郡賦ニ渡部ニ作ル
滝宝山妙見寺同村ニアリ寛永十年領主松
平越中守定綱ノ祈願所ニ父國印百石ヲ附ス
修驗ナリ古屋草紙隱岐守忠綱トス背書國
誌越前守菩提所トス各非ナリ
式部泉ニ同処西ノ禁ニヤ州方俗傳云和泉式
部コノ処ニ來憇以硯水ニ用ルヨリ起ルリ
ト桑名府ノ儒臣夙騷ノ客往々避暑ノ地ナリ
明曆中三宅正堅及堅恕其外數輩ノ詩賦アリ
勢阻雜記其所載日一三ノ六贅文讀之則有

而式部泉唱和詩同遊式部泉
彩石疊成式部泉 松簪蘿帶貌容濃
劈閑何暇巨靈手 疏鑿直爭大禹功
幾曲武第空谷曲 屢風沂水舞雩風
先生独嘆在川上 勾引重期六七里
載重遊式部泉詩并序 澹菴
桑名西距治處一許里有山曰妙見便菩提薩埵
之所堅座也其西麓之水曰式部泉不知何代誰
人命之名焉或曰和泉式部昔過于此故号或曰
斯水也其色金碧玉堂其味輕軟甘美有德有容
可飲可玩盖式部者六々歌人中一女仙也才貌
之好可想見矣且以泉字標其名焉因此竝而稱

之復未知孰是余愛其景象假日出遊以消吾憂
者數矣小岸怡石防雨後墮細流浚溝培凡前響
泥壤除而清砂出榛節誅而嘉花列誠亦一異境
也其地既近而又能幽則無復市廛氣且風塵之
避近則乘且夕恒至有急且取歸途易異平彼幽
即遠而近必喧者也豈復有所謂勝地不常盛筵
難再之憾哉一日拉白賁犬人經由倘伴宗朝暨
昏犬人廼唱一咏以寫性情余亦倚響而和之今
日同志十數人又來遊此處乃叙其懷抱之所暢
歷方何不臧或有盤于蒼崖古壁之際清嘯天風
者或有下溪涉澗弄幽花掇細草者或有踞怪岩
而詠招隱詩撫疎松以詼閑居賦者或有挈藜徐

步討長岡訪平劫与田夫野老說談者或有倚賴
山閣捲簾靜觀孤雲起滅者或有欲窮滄海眼更
上一層巔者或有快然負涼入墨甜鄉跋華晉國
者或有拈坐蒼苔閉目搖膝苦吟沈思者或行却
返坐又起或散且聚默復語其覽物之所得雖或
有淺深而皆至獲其意之所適則一也異乎彼同
友而不同遊同遊而不同意者也豈復有所謂寄
趣難均玄契罕遇之歎哉遂就禪房而啜茗開行
厨而酌酒優々焉雍々焉然山靜日長遊猶有餘
力重用前韻各裁一章既訖俱集清泉之下挹華
掬翠頰而嗽口試採諸篇朗吟一門超然出俗如
讀赤壁前後賦泰然頤神似誦黃庭內外經疑天

地更無世覺乾坤独有吾樂乎此樂也異乎彼惕
日花街翫宵柳陌醉紅裙而飽翠袖者也豈復有
所謂流連光景海淫教偷之累哉嗚呼等是兒戲
物水中少磷縑吾於式部泉亦云於是乎又各自
記姓名於詩端以做同會目錄且為後遊之手摹
寔在辰之歲誕賓之月某支某干也余時偶為遨
首特賦若干章々八句其詩曰
山鍾神秀出甘泉 築鑿翻嫌意匠濃
廣狹全須從地勢 淺深不用補天功
一推雲氣蒸生石 幾點雨聲敲起風
賞翫無冬又無夏 春衣豈獨自携童
從其二至其十二及諸子賦章十八首各畧

今詮及止 和泉武部當國徑歷履迹絕味古
籍之所徵 俗傳清泉之名來抑武部
夕儿十以澹菴詩序 其水可愛月式部力才
德 比以号夕儿 形容不訛 其罪ヲ蔽其臣
ノ十リ和泉筋郡縣 式部古墳泉南郡土松村
二了リ同日根郡小嵩村 楊枝清水 鏡石
鉄漿壺 稱又夏蹟 傳フ処 始トメ生卒ノ
墟或ハ軒端梅 意覺淵等三十餘所了リ
メ真ヲ得カ夕 和泉ノ名ハ和泉郡國府ヲ清
泉一名和泉井 稱又神功皇后三韓凱陣ノ片
ノ小竹宮ノ旧址及元正聖武二帝ノ行宮珍努
離宮後鳥羽院熊野行幸 憇主ヲ処其餘歷代

國司ノ主宰ノ位スル國衛以地ナリ延喜式泉
井上神社モ此処ニ奉祀シ清泉ナルヲ以國ノ
名ニ号タリ猶泉式部ハ止東門院ノ女官ニメ
和泉守藤原道貞カ妻ナリ故ニ和泉以テ名
ク墳墓ノ地ハ京洛小川通誠心寺ニ老後薙髮
メ住テ命ヲ終ル則和泉守カ妻タリトナレ
和泉ニ經廻セテ其傳ヲ不見然此ニ方俗妄
ニ其名ヲ冒シテ其傳ノ大例以知テ度會郡
山田光明寺ニ和泉式部石塔ト稱テ其由
縁ヲ存ク其條詳ニモリ和泉式部ハ大江
雅致カ女母ハ辨内侍ニメ止東門院ノ女官也
和泉守正四位下橋道真カ妻トナリ故ニ和泉

式部ト稱ス一女ヲ産ク小式部内侍ナリ式部
冷泉院天皇第三皇子彈正尹為尊親正任
為尊薨メ後橋道真ニ離別又此トキ式部カ詠
スル哥統拾遺集ニ載タリ此後道真陸奥守ニ
任メ彼國ニ下向ス時式部カ詠シ哥詢花集ニ
載タリ又為尊親王ノ弟敦道親王式部カ許
通玉フナアリ此ヨシヲ聞テ赤染右大臣哥ヲ
式部モホクニ返哥アリ新古今ニ見タリ敦道
親王式部ハ御館ニ伴ヒ住シメ五七一条左大
臣師尹公ノ女ナル北ノ臺ヲ疎ニ玉フ故ニ北
臺ノ御姊三条院皇后東宮ノ女御ヨリ兄達ヲ
ツカハシ迎ヒ玉ヒシト此本末和泉式部日記

二詳ニ記セリ又大鑑云師尹の令此一知乃女
君を父に子せむといふは冷泉院の御高師此高
の所よりへん二之をいふもいふもせり不
二高和泉式部はかへさせむといふあり
又小世継云ハシメツカ外心サシモ十歳ヤ
ウニシヘケレ山後ニハ上ヘヨ去奉
ヒテヒタズル此式部ヲ妻ニセテ玉七夕
リトスヘタリ敦道親王薨王乃侍ヨ此哥式
部家集ニテ山後ニ丹後守藤原保昌カ妻十
レリ詞花集後拾遺集家集ニ保昌モ具ニ丹後
ニ下向セシ哥アリ保昌ニ志止テ後貴布祢ニ
諸宗哥有ニシ山後拾遺又家集ニ載タリ又式

部女巫ヲ憑ニテ貴布祢ニテ殺サセ保昌ニ對
面セシテ砂石集ニ見エタリ保昌ニ丹後國司
ナリ長元九年九月十五日七十九才ニテ卒ス
丹後乃官津塔アリ詳ニ丹後名所記ニ載タ
リ保昌卒ニ後式部薙髪ニ尼トナリ小御堂ニ
住ス小式部ハ母ニ前チ死セリ家集ニ見エタ
リ貞徳百人一首頭書云和泉式部年老テ尼
トナリタル御堂関白道長公憐ニ玉テ小御堂
ヲ賜ヒテ住ス小御堂ハ誠心院ト云末世ニハ
和泉式部ト云寺ナリ山城名勝志云元在一條
北白河隣誓願寺近世誓願寺近三條之時同近
彼寺南俗云和泉式部寺今律院為泉涌寺末寺

日次記曰三月廿六日專意法尼忌是和泉式部也京極東福寺誠心院有木像並塔誓願寺亦有牌此說一抄儿片ハ本筋ニ經行ノ因十三詳ニ察知スヘシ
北別所 東方ハ西門子正稅三百四石
乘名領十石ハ城址アリ領主未詳接スルニ氏家内膳正十石ハ
照源寺ニ同処ニ居リ旧領主氏家内膳正及松平隱岐守定綱神儀ヲ安置スル裏山ニ御吳屋アリ鎮守井戸アリ
圓妙寺 同処ニアリ松平摂津守定良ノ牌子アリ

上宝生山聖修寺 同処ニアリ泉涌寺弘永祿十一年兵火災罹ル向祿以今終ニ存也別所相表西方五北別所ハ南ニテ前ニ云東方ニ對以稱スナリ正稅五百九十四石乘名領十石
西方城址 字少愛宕ニ守リ其遺址ナリ澁川左近將監寺益所築ナリ又此說矢田村歎迦寺ノ地澁川カ所築トス西方ハ澁川家臣加藤三介ヲメ守固セシメ一益ハ矢田村居地リト云然ハ矢田一郎左門尉永祿申矢田城ニ從ス同十一年廢スト云片ハ是旧領ノ地ナリハ後ニ澁川カ為ニ滅ハ後加藤三介同所置ナリハ

大夫西方ノ南ニアリ正統百四十六石衆名
領ナリ本邑ヨリ獅子頭ノ舞又舞曲向ナリ
鼓吹ノ俳優又大神樂ト称メ諸節ニ經歷又習
俗ナリ此処ヨリ六組陸奥郡阿倉川ヨリ六組
北都テ十三組黨ヲ結テ近國又横行云故ニ大夫
ノ名ヲ称ス又其ノシヨ上野及大夫又二邑ヨ
リ衆名府春日御祭ノ役又勤勞遺風旧例也
白山城址同処ニアリ字ハ白山ト称ス又
リ中葛將監居モリ長葛本願寺一揆與力ナリ
西天正二年十月織田信長令人擊シテ佐佐間玄
蕃正蜂須賀阿波守丹羽五郎左門柴田勝家
等其城ヲ廢セリ同カ

上野ノ大夫ノ南ニアリ正統百四十八石衆名
領ナリ多氣郡及菴藝郡同名アリ
西別所上野ノ西ニアリ北別所ト對メ称ス大
正統四百七石衆名領ナリ
西別所城址同処ニアリ後藤弥五郎基成住
セリ天正十二年長嶋一揆ノ時織田信長佐々
間蜂須賀丹羽柴田ニ命メウケシム
稗田西別所ノ川西ニアリ正統三百六十石
衆名領ナリ
蓮花寺稗田ノ北ニアリ正統四百四十八石
衆名領ナリ
蓮花寺城址同処ニアリ城主未詳衆名郡賦

三載夕以故南回少... 糠田 稗田ノ西ニアリ 和名鈔額田郷ニテ旧
名額田ナリ 正統四百八十四石乘名領也
式内額田神社 同処ノ北三丁松林ノ中小山
林ノ半腹ニアリ 祭神意富伊我都命 星川神社
ヨリ負辨川堤ノ上ヲ十町余本邑ニイタル或
云星川神社ヨリ十五町餘度會延經神名帳考
証云額田部天津彦根命孫意富伊我都命之後
也在糠田村又乘名宿南西也 度會正身神名
西帳再考證云社地乘名ノ西南糠田村ニ在又祀
神意富伊我都命性氏錄云云上ニ同シ 今詳
土記スルニ延經考証ニ額田神社ハ姓氏錄身引

徵少額田部ハ天津彦根命ノ孫意富伊我都命
ノ後ナリト云云 額田糠田相同ニ故ニ祭
神意富伊我都命ヲ奉祀スル処ニシテ其糠田
本乘名馭ノ南西地ニ于日下又解ナリ 正身再
考証ニ前考証ニ於テ別論ナシ 愚按ニ額田部
ノ遠祖天津彦根命三世孫意富伊我都命ヲ祀
少額田神社ト號スルニ於テ今ノ糠田相同
ニカ故ニ此ニ所在ナスニ推知ス 然レ其
故ヲ未詳ニ妄ナリ 古史記云次天津日子根命
者凡河内国造額田部湯生連云云 蒲生稻寸三
枝部造等之祖也 日本書紀云天津彦根命此茨
城國造額田部連等遠祖也 姓氏錄云額田部湯

坐連天津彦根命子明立天御影命之後也允恭
天皇御世被遣薩摩國平隼人後奏之曰獻御馬
一口額有町形旋毛天皇喜之賜姓額田部也
又云額田部臣田連向神天津彦根三世孫意富
伊我都命之後也允恭天皇御世獻額田馬天皇
勅此馬額如田町仍賜姓額田連又云額田部
湯坐連天津彦根命五世孫乎田部連之後也
曰袁記云天斗麻弥命額田部湯坐連等祖也
本居宣長古度紀傳云乎田部八乎田り誤十
ハシ上ハ臣田壬豆多以謂十リ額田部湯坐連
ハ其氏人ノ中ニ湯坐連ノ由別ニ賜ハリ
姓額田部其湯坐連後榮立廣城ハ故

二日本書記云乎田部ハ考德記考
謙紀仁明紀仁多見工名也但額田部連ハ惣
ニハス外又類聚國史中額田國造トリ同姓
十儿考考才ハ姓氏錄天津彦根命界天
戸間見命云云此ニ概ハ額田部連額田部湯
坐連額田部臣田連額田國造等ハ異リ猶湯
坐連ハ姓氏錄天津彦根命子明立天御影命後
トス外又云天津彦根命五世孫乎田部連後
不意又曰袁記云天斗麻弥命以後ト又古
記ニ天津日子根命ノ後トス但田連ハ姓氏
錄天津彦根命ハ三世孫意富伊我都命ノ後ト
又額田部連ハ日本記ニ天津彦根命以後ト

又其支別帶極示祖公異十人猶額田神社以名
稱大和意以其祖神公定難之然此天津彦根
命ハ額田部遠祖ニメ明立天御影命天斗麻弥
命意富伊我都命等ハ別示此ニ祀ル処ハ意
富伊我都命ニ必セリ中又此天津ハ額田佐田連
左裔孫ハ所祀ニ定夕此ニ延延矣ナリト又ハ
天津彦根命ハ就此額田部ハ姓氏ニ相通以
遠祖ナリト謂ハシ然レハ此ニ奉祀又此ト云
中ハ既言本郡多度神社ニ祀ル文乘名神社ニ
天津彦根命天久之此命ニ座同併祭ルトスレ
請登示此額田神社ニ本郡中巨社ニ並祀ル
ハ其幾事然レ未前ニ云支別ノ四神外内ニ

額田部ノ氏ハ奉祀ニ知レ云未其詳
ナリト得レ或ハ他社ノ例ニ極上ニ遠祖天津
彦根命ヲ祀ルハ實トスレ故ニ前ニ考証
ニ從レ難シ又額田ノ名称ハ日本書顯宗紀ニ
倭國山部郡額田邑倭名抄云天和國平群郡額
田奴加今額田部村ニ轉セリ又河内國河内
郡額田等アリ惣メ額田ハ姓氏録ニ極レハ此
姓氏ヨリ出タル村名ナリト又地名ヨリ出ル
ル姓氏モ多シ憶中ニ額田神社ニ其裔孫ヲ奉
祀スルニ極テ崇敬ノ餘リ其社及村邑ニ稱
ス所ニ以此村姓ヨリ出ル稱スル処ナリ今
糠田ニ作ルハ後人ノ俗弊ナリ神名帳考証及

再考証勢阳雜記拾遺式社寮内記其餘諸家各
意富伊我都命ヲ奉祀又云以別異又云各未
詳又云八云從云難云故云姑云閑云如云其所祀
ノ神云天津彦根命及明位天御影命天斗麻弥
命意富伊我都命四座ノ中ニ其真云十云ル云考索
又云八云山云ヲ云然云ノ云歸云田云ノ云故云ノ云外云ノ云地
額田城址云同云忍云仁云了云辨云後藤太郎左山門尉基
則居云七云リ云永祿十一年織田信長云為云三云廢云也云
西別所云以云城主後藤氏云ノ云族云十云リ云本云書云録云也云
增田云糠田云ノ云南云ニ云了云リ云一云屬云邑云ウ云ル云キ云不云リ云旧云名云
益田云庄云十云リ云後世增田云ノ云記云又云東鑑云第三云十三云
嘉禎四年二月十日云本云書云録云也云辰條云云云天齋云從云五位云下云

行隱岐守藤原朝臣行村法師行西卒年八十四
于時在伊勢國益田庄此間向彼所云云云又嘉
禎四年二月隱岐守行村入道此庄云領云也云曰
案云アリ云今云以云成云ノ云キ云往云也云十云云云一本云云云鶴
野云未云作云ル云正統三百八十五石云乘云名云領云也云
神鳳抄云云云增田御厨云曰云本云梅田云作云ル云非云十云リ云
增石云十云云云怪云嵩云ナ云リ云又云會云五云石云乘云名云領云也云
乘部云員云辨云川云ノ云南云ニ云メ云増田云ノ云巽云位云三十町云了云
リ云正統三百九十六石云乘云名云領云十云石云神鳳抄云云
二宮留米御厨各一石五斗云一本云久云和云米云作云ル云
米云八云音云部云ニ云同云ニ云是云ト云又云八云石云然云レ云氏云負云辨云郡云ニ
六云隸云ス云ト云云云八云氏云今云本云郡云ニ云係云ル云以云故云此云ニ云標云ス

式内長谷神社 同知ニテアヲ奈神岐神兼名矣田

立坂神社ヨリ上野村ヲ右ニ望ミ稗田至リ

川ヲ涉リ本邑ニ坐ス額田神社ヨリ巽位三十

町 度會延經神名帳考証云長谷神社岐神与

朝明郡同神倭名鈔ニ云熊口按熊道隈乎船户

村兼名宿之西也 度會正身神名帳再考証云

長谷神社朝明郡在ニ長谷神社ト同ニ當郡

ニモ同神ヲ祀ルニ社地未考ニ今詳ニ

スルニ考証所謂ニ朝明郡長谷神社了ヲ奈神

岐神ニテ相同ニ熊口倭名抄本郡郷名ニ

又熊口度會郡朝熊ノ例ニ倭道ノ限ナリ云

ニ其神社所存ニ本郡府城ニ坤位兼部村

西ニ所祀トスニ船户ノ名亦今村名ニ亡シ即

前號尾野神社ノ町屋川ト眞辨川ノ水涯ニ迄

ク旧名船着明神ト称スルニ同ク此兼部モ町

屋川ノ水涯西ニアリ故船户氏謂人然

レ氏岐神古夏記ニ名衝立船户神トアルニ抑

テ船户ノ村名ヲ設テ附會スルニ似リ其船户

ト指ス地ハ兼部村トルニ必セリ略是トスル

ニ正身再考証ニ所言モ上ノ説ニ抑テ別ニ異

ナシ社地未考ト云ハ詳ナラザルナリ後號朝

明郡長谷神社ノ條ニ併考スルニ龍淵近神名

帳考正社地未考トス古屋草紙云兼部御厨ニ

宮名田ニ石五斗長藏神社宇賀御魂繼体天皇

御宇毎国令造長藏此倉云云此長藏村作是
非トスハシ今式社案内記本郡桑部村三所
在トス神名帳考証ニ從テ桑部ヲ發明ス此處
真トスハシ
桑部城址同如アリ桑名三郎左工門尉行
政佐ス夫正斗時桑蜂須賀彦右工門尉信長ノ
命ヲ受テ居セリ永祿中毛利治郎左工門尉住
セリ信長力為テ滅ス由立無クハ
野部桑名ハ西三アリ旧名能部不記若リ明曆
中以後野部ト録ス正統四百四十三石桑名
領トシ
西谷野部ノ北ニ定リ正統三百九十六石長

名領トシ雜記ニ載明曆中百リ後所置トル
ハ
西金井野部ノ東ニ在リ正統三百二十石
桑名領トシ
東金井西金井ノ巽位ニ在リ旧名金總トシ金
井ノ負辨郡同名ニ在リ混スハカラ又往昔
ハ繩生ト本郷ニ在リ今不分明置セリ力如シ繩生
ハ今朝明郡ニ屬ス
金井城址同如ニ在リ金井彦之進居セリ小
山城主高井猪飼城主小串溝野城主淡川氏等
朝明郡萱生城主春日部越前守ノ與力從騎ト
リ永祿中萱生城同時ニ廢亡ス

野田 凍金井之良位 正統百十四石乘

名領 正統百十四石乘 正統百十四石乘

和泉 野屋川 北江場 正統六百

七十八石桑名領 正統六百

小和泉 新田 和泉 正統六百一

石桑名領 正統六百一 正統六百一

置 正統六百一 正統六百一

東町 屋川 星河 今町 屋川 上

野 稱之 水源 負辨郡 篠立ノ山中ヨリ流出テ本

西 郷ヲ 歷河合ニ至リ 山口川及清司原ヨリ出ル

二流下相合ニ又阿下喜ニイタリ 田邊川ト小

西 原 色ヨリ出ル 流ト合ニ阿下喜ト上稱ス

此 処々 行 乘 名 府 通 流 下リ 坂 本 川 野 尻 川

拾 遺 一 流 下 村 治 曲 川 石 樽 川 笠 田 池 下 流

相 合 三 十 梅 戸 川 一 流 十 十 金 井 大 泉 ヲ 歷 テ

南 北 大 社 ノ 中 間 ニ イ タ リ 中 上 川 穴 田 川 ト 合

又 糠 田 川 ニ テ 一 流 ト ナ リ 西 別 保 川 東 金 井 川

ノ 支 流 落 合 テ 金 井 ノ 北 ニ メ 東 街 道 ト ナ リ 町

屋 川 ト 稱 ス 川 幅 百 六 十 間 土 橋 ヲ 常 架 セ リ

本 筋 第 一 ノ 大 河 ニ メ 負 辨 郡 中 ノ 山 谷 流 レ 合

又 故 二 洪 蕩 ノ 患 ア リ 下 流 六 朝 明 郡 北 福 崎 本

郡 和 泉 ノ 中 間 ヲ 歷 テ 東 海 ニ 入 レ リ 今 詳 二

ス 北 二 町 屋 川 ノ 名 義 八 延 喜 中 三 至 リ 今 八 朝

明 郡 繩 生 八 金 井 以 支 郷 三 以 金 網 之 駅 十 云 過

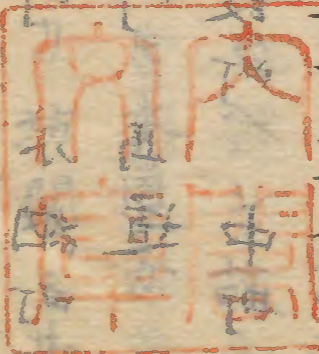
客ノ舎ス処ナリ後世乘名府城ヲ置ルヨリ
ハ乘名ニ轉シタリ此地古昔取舎アリ之
エハ三町屋川ノ名ヲ存セリ一説ニ天正十二
年織田信雄豊臣秀吉公亦矢田河原ニ示和睦
ノ在陣アリシヨリ其隊軍法待合ス処ナリ
待合川ノ訛訛ナリト云是古昔ノ分野ヲ不響
ノ俗弊ナリ信ス夫カテス又東海郡
又東海郡抄一庶ナリ宗祇法師東海郡
由來多クハテ清和ノ星川ノありけ
是此川ヲ星ノ定メ方トタルナリ水源ニ星川
村邑及星川神社ニ坐ル故井川今朝明郡繩生
久間小向米小流也詠ル非又是毛方俗人

弊言ナリ其條ニ詳ニ又天正中織田豊
臣ヲ兩將對謁シ地ハ町屋川ニアラヌ今ノ矢
田ノ地ナリ其号ニ辨ス俟誓ス
乘名府山本筋ノ魁首ノ府ニメ東街官道尾筋愛
智郡熱田ノ宮取ヨリ舟行七里地ヲ接メ東海
ノ瀕ニアリ北ハ濃筋ニ接シ本曾川多度川
禦アリ西ハ員辨郡界ト本郡ノ山谷連綿メ凡
八町餘ナリ南ハ官道ニメ朝明郡ニ接メ町屋
川ノ疆域ナリ又メテ東南ハ蒼海ニメ北ニ未
曾川流アリ西ハ員辨郡山谷ニ聯テ雄鎮メ府
ト謂ヘシ負辨朝明ノ郷民トニ集テ山川ノ
産物ヲ交易シ其地富高豪民多シ東北ハ山民

柴薪炭及菜蔬所謂乘名折敷今遺ハセリ其名
海郷ノ民庶ハ漁獵ノ海錯ヲ鬻ク所謂乘名蛤
蚶麩條魚等名産アリ刀釵鍛冶多ク小刀剃刀
等ヲ産ス乘名村正ノ餘裔ナキ其坊間ハ東
海ノ喉口舟町ヲ始トシ又矢田氏在夕共四十有
餘坊又福島界津島町ハ長共二十六町一間其
戸數二千六十餘戸寛永中ノ所定ナリ其海瀕
ノ府ナレハ水土ノ性重濁ニテ悪ム故ニ
東西ノ山中ヨリ樋篋ヲ通メ一城府尾水道加
リニメ民屋數十行ノ水道縦横セリ坊間ニ井
ヲ設テ汲水ノ資用トス其坊間ハ大畧
船場一京町新北町、南魚町、吉津屋

新道町 鍛冶町 東町 宝殿町 舟町 川
口町 北奥町 三崎通 新宝殿町 宮通り
水車町 油町 萱町 入江町 小網町
新町 江戸町 傳馬町 風呂町 馬道 紺
屋町 寺町 新屋敷 田町 葭町 中町
矢田町 其餘小條多シ 京橋ハ三十里ニ
當府ヨリ諸島海路行程山庄重郡品川市ハ舟
行三里ニ菴藝郡白子ハ七里ニ安濃郡津太米
里同志島荅志郡島羽浦ハ廿里ニ尾島知多
郡大野浦ハ七里ニ同師崎ハ十八里半同内海
庄ハ十里ニ尾島名古屋ハ八里半同陸
路ナリ同海東郡津嶋ハ三里 美濃島横曾

根八八里同... 陸路十濃... 垣八十二里... 位同下... 里三度會... 八三里... 石薬師... 位東都...



紙数五拾七枚

